

【連載】

老健仕事人 事務職

名脇役になるために

[第1回]



越智誠弥 【おち・せいや】

老人保健施設伊予ヶ丘（愛媛県）
事務科 係長

はじめに

突然ですが、理想の事務員と聞いて、皆さんはどのようなイメージをおもちでしょうか。私の勝手なイメージですが、いつも笑顔で礼儀正しく言葉遣いがいい。周囲への気配りと機転のきく対応ができる。几帳面で何事にも手を抜かない。パソコンを熟知し高度なスキルを身につけている。事務処理が正確で早い。専門的な知識や資格をもち、誰からも信頼されている。書字がきれいで上品さを感じる。清潔感がある身だしなみを心がけているなど、あげると切りがありません。

一方で、笑顔が少なく表情が硬い。自己中心的で気配りが苦手。大雑把な性格で手を抜いてしまうことがある。パソコンの知識やスキルは普通で、事務処理は正確とはいえない。専門的な資格はもっていない。書字もきれいとはいえない。清潔感を醸し出すには限界のある中年親父。これが私です。

理想の事務員とは程遠い私ですが、せっかく本誌に3回の連載の機会をいただいたので、約21年間の事務員人生を振り返り、老健事務員の役割や面白さをお伝えできればと思います。

私の職場

当施設は、松山平野を見下ろすことができる愛媛県伊予市の高台にあり、心身ともにリラックスできる療養環境に恵まれています。

入所定員100名（一般棟70名、認知症専門棟30名、ショートステイ空床利用3名）、通所リハビリ定員50名、訪問リハビリのサービスを提供しており、「地域に開かれた施設、そこには豊かな老いがある。

心に寄り添うケア、そこには人としての喜びがある。私たちはそんな施設をめざしています」の施設理念のもと、地域の方とのつながりや絆を大切にしています。

2018年介護報酬改定時には、春から超強化型老健となりました。現在も地域の中核施設として、医師、理学療法士、作業療法士、音楽療法士、看護師、介護職、ケアマネジャー、支援相談員、管理栄養士、そして事務員がそれぞれの専門性を発揮し、さらなる在宅復帰・在宅療養支援の強化を図るべく、多彩なサービスの充実をめざしています。

法人内には併設医療機関である「伊予病院」（回復期リハビリテーション病棟218床、一般病棟72床）を中心に、「グループホーム伊予の郷」「いよ居宅介護支援事業所」「伊予訪問看護ステーション」「伊予訪問介護サービス」「いよ福祉用具サービス」、3つのデイサービスセンター「たかやなぎ」「あがわ」「ほうゆう温泉」、2つの高齢者住宅「あがわの郷」「グレースフォーユー余戸」があり、これらの医療サービスと介護サービスが連携して、地域の方の暮らしを支えています。

老健事務員になるまで

私は1999年4月に「伊予病院」の事務員として入職しました。当時の事務員は8名でほとんどが女性でした。社会人1年目で右も左もわからないなか、少し気が強めなお姉さまたち(?)に電話対応や来客対応、書類作成および整理、医療事務の知識など幅広く指導を受け、業務に必要なスキルを高めるとともに、苦手だった女性との接し方についても学ばせてもらいました。